



出会いと経験、 自分の目標を見つけた“4年間”

学生団体「COME」や「長崎ホームレスを支援する会」に所属し精力的に活動していた佐藤大樹さん。大学生活を振り返っていただきました。

永田／佐藤さんが多文化社会学部に入学しようと思ったきっかけは何ですか。

佐藤／しょうもない理由ですが、一年間留学生と寮で一緒に住めることが面白そうだなと思ったことがきっかけです。

永田／実際に入学してみてどうでしたか。

佐藤／留学生も含めそこでしか出会えない多くの友人に出会えて、入学してとてもよかったなと感じています。バックグラウンドの異なる人と仲良くなったこと

学生団体「COME」での自己分析。



は大学4年間で振り返ってみて印象深い思い出として残っています。

永田／佐藤さんは、大学4年間の中で「COME」と「長崎ホームレスを支援する会」に所属し活動していたと伺いました。具体的にどのような活動をされていたのですか。

佐藤／「COME」は就職活動を意識した団体で、自己分析や企業訪問などによる業界・企業研究を。「長崎ホームレスを支援する会」では主に毎週木曜日、夜の弁当配りを行っていました。

永田／その活動を通してやってよかったと思うこともしくは得たものは何ですか。

佐藤／まず「COME」で活動してよかったなと思うことは、自分の目標を限りなく可視化できたことです。具体的に私には「社会問題に携わり、問題提起を行い発信したい」とそのような思いがありました。「COME」での様々な企業への訪問や研究をする中で、自分のしたいことを達成するためには新聞記者がふさわしいということに気づけ、目標が明確になりました。また「長崎ホームレスを支援する会」では、実際に困窮者の



「長崎ホームレスを支援する会」での弁当配りの準備。

生活を自分の目で見てどのように困っているのか、何を必要としているのかを知れたことは私の大きな財産となっています。「COME」と「長崎ホームレスを支援する会」での経験が新聞記者になりたいという強い動機となりました。

永田／新聞記者として、これからの目標などありますか。

佐藤／長崎県の人みんなに社会問題に関する自分の記事を届けたいです。長崎新聞と言ったら佐藤だよねと言ってもらえるようないい記事をこれから書いていきたいです。

永田／目標を持ち行動し続ける佐藤さんはカッコいいなと感じました。佐藤さんの記事を読む日を心待ちにしています！

インタビュー
近藤由美さん

宮川智慧さん

教育学部4年



私たち学生が当事者となって 若者人口流出問題を解決したい

学生団体「スマイリス」を結成し、「株式会社PAL FLAGS」の代表取締役として活躍している長崎大学教育学部4年生の宮川智慧さんに、会社や学生生活についてインタビューしました。

近藤／起業しようと思ったきっかけは何ですか？

宮川／教師を目指す日々の中で「もっと色々な経験をして自分の視野を広げたい、その経験を子どもたちの教育に活かせる先生になりたい」という思いがあり、学生団体の活動を始めたのが最初のきっかけです。活動しているうちに、大学を卒業してすぐに先生になるよりは、どこか企業に就職して、経験をつもうという考えが芽生えました。しかし、就活中に、元々繋がりがあった企業さんから「今、宮川さん達がやっていることは立派な事業だから会社としてやっていけるんじゃないの?」というお声を頂き、確かに、学生団体という組織自体とそこから生まれた活動を継続的にやっていくことを考えたら、会社の形にする方が、課題解決型のビジネスとしては最適なのではないかと考え、起業することを決めました。

五島市の事業所様に向けて行った「会社PR動画制作セミナー」での一枚です。



近藤／学生団体「スマイリス」について教えてください。

宮川／長崎市は2018年、2019年の若者人口流出数がワースト1位であることを知り、何かできることがないだろうか、私たち学生が当事者となって若者人口流出問題を解決したいと考え、2020年4月に学生団体「スマイリス」を立ち上げました。活動内容としては、就活サポートや教育事業をしています。

近藤／「株式会社PAL FLAGS」はどのような活動をしていますか？

宮川／メインの事業は就職支援事業で就活マッチングサイトの運営です。学生団体の時は、実際に学生さんと企業さんが会えるリアルな場を作るというアナログな部分での取り組みだったのですが、それをデジタルな部分でもマッチングできるシステムがあったらいいので



就活マッチングサイト「ミツカル」は長崎創生プロジェクト事業として長崎市より認定を受けました。写真は授与式の際の長崎市長との一枚です。

はないかということで「ミツカル」というサイトを企画して開発を委託し、学生視点で私達が運営を行っています。事業をやっていくうちに企業さんから「学生が何に興味があるのか、学生が何を知りたいのかを掴みにくい」というお悩みを頂き、そのPR部分を私たちの方でお手伝いできないかということで広告PR事業も行っています。あとは、学生団体「スマイリス」の支援、ICT教育事業も行っています。長崎はIT系の企業が少なく、今後、若手のIT人材の育成と輩出が必要になってくるだろうということで、昨年6月にコミュニティスペースを設置し、そこで中高生の時からIT系、ICT系を学ぶ機会を提供しています。